
第12章 子とされる

10.1. 神は、義とされるすべての者が、そのひとり子イエス・キリストによって、また彼のために、子とされる恵みの参与者となることを許可します（エペソ 1:5、ガラテヤ 4:4,5）。それによって、彼らは神の子の数に入れられ、子としての自由と特権を味わうようになります（ロマ 8:17、ヨハネ 1:12）。また彼らの上に神の名が記され、子としての御霊を受け（ロマ 8:15）、大胆に恵みの御座に近付き（エペソ 3:12、ロマ 5:2）、アバ父と呼ぶことができ（ガラテヤ 4:6）、憐れな者として受け入れられ（詩 103:13）、守られ（箴 14:26）、必要なものが供給され（マタイ 6:30,32、1ペテロ 5:7）、父から下る懲らしめを受け（ヘブル 12:6）、しかし決して捨てられず（哀歌 3:31）、贖いの日まで証印され（エペソ 4:30）、永遠の救いの相続人として（1ペテロ 1:3,4、ヘブル 1:14）、約束のものを相続として受けられます（ヘブル 6:12）。

救いの祝福は、イエス・キリストから包装 (Package) されて私たちに与られます。それは、信仰によってキリストをつかみ、キリストに結合され、身分的に変化が起き、義人として見なされ、同時に神の子どもとなります。義認と子とされることはキリストに結合されると同時に起こる身分の変化です。ここで

義認と子とされることを救いの順序と見てはならず、キリストとの結合から得られる有益として見るべきです。

子とされるとは、古い人、アダムの中にあつて、関係が断たれてしまった神の家族に結び合わされることを意味します。これは聖化の霊を受けたことであり（ロマ8:15）子としての栄誉を持つことができ（ヨハネ8:35）神の御座に大胆に近づくことができるだけでなく（エペソ3:12）子としての相続を所有するのです（ガラテヤ4:7）。子となれることが、義認と区別されるのは、今、子としてのすべての特権を味わえる権利を付与されたということです。神の子どもになった者たちが味わう特権として、新しい名で呼ばれ（イザヤ62:2）子とされる御霊を受け、私たちが神の子どもとなれたことを証しし、神の恵みの御座の前に大胆に近づき、父なる神の保護を受け、必要な物を供給されるのです。勿論、私たちの罪と悪を正すために父なる神により懲らしめも受けます。結局、天に蓄えられた豊かな栄光を相続として受けつぐのです。従って、神の子どもという点で、すべての聖徒は何の差もありません。

しかし、ルター主義者たちは、神の子どもたちの中には、しばらくの間、完全に恵みから落ちることもありうると主張し、アルミニウス主義、クエーカー主義、ソツツィーニ主義者たちも、神の子どもだと言っても恵みから完全に、そして最終的に落ちることもあると言います。このような主張は誤りです。キリストとの結合教理を受け入れない点から出て来ます。しかし、キリストとの結合によって受けた子とされることは、聖徒の堅忍の恩恵までも同時に受けるのです。聖徒の堅忍は、恵み契約の中で選ばれた者に、神によって約束されたものとして、ルター主義、アルミニウス主義、クエーカー主義、ソツツィーニ主義は、みな誤り等々です。

一方で、子とされる叙述の内容を乱用する場合があります。ピリピ書1章6節（あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。）を乱用して、人間の責任である、ピリピ2章12節（わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。）を、丸つきり無視する場合があります。ルター主義、アルミニウス主義の反対は極端です。このような教えからは、自分を罪に放任させたり、罪と戦うことなどしません。どうせ、救われるべき人は、神が救うでしょうからと、考えるからです。ハイパーカルヴァン主義がこのような見解を持っています。人々の責任は無視して、すべてのことを神の主権にだけ帰させる霊的怠慢からの言及です。

しかし、神は、信者たちに聖さを要求なさるので、信者たちは責任を果たすようになっています。信者が責任を果たすとき、自分は無能で弱いことを知り、より一層、主の恵みに頼るようになります。それで、信者はキリストにあって保全され、最後の日に主の御前に立つことができるのです。